

対象校No. 900  
注4

学校コード F127310108349  
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の学科の設置  
注1

**届出**

注2  
森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人森ノ宮医療学園  
令和6年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名	学長室企画課
職名・氏名	イマニシ エリナ 今西 恵梨奈
電話番号	06-6616-6911（内線：1164）
（夜間）	06-6616-6911（内線：1164）
e-mail	kikaku@morinomiya-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。  
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

# 目次

## 総合リハビリテーション学部

＜言語聴覚学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 森ノ宮医療学園

## (2) 大学名

森ノ宮医療大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒559-8611

大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シミズ ナオミチ) 清水 尚道 (平成25年4月1日)		
学長	(アオキ モトクニ) 青木 元邦 (令和3年4月1日)		
学部長	(モリタニ マサユキ) 森谷 正之 (令和4年4月1日)		
学科長等	(ナカタニ ケン) 中谷 謙 (令和6年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)  
令和6年度に報告する内容 → (6)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに入力してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。  
 ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科  学士 (言語聴覚学)	医療衛生学関係(リハビリテーション関係)	4  年	40  人	2年次 0 3年次 0 4年次 0 人 人 人	160  人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期														
A 入学定員	人 ( ) [ ]	40 ( ) [ ]	-	1.02倍	-											
志願者数	( ) [ ]	208 ( ) [ ]	-													
受験者数	( ) [ ]	202 ( ) [ ]	-													
合格者数	( ) [ ]	107 ( ) [ ]	-													
B 入学者数	( ) [ ]	41 ( ) [ ]	-													
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.02	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。  
 ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、( )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。  
 ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。

- (春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)  
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。  
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、**留学生の状況について、内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	41 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{41} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科>

(1) -① 授業科目表

【届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目群	基礎ゼミナール	1前	2			3	2	3				1
	物理学	1後		2								1
	生物学	1前	2									1
	化学	1前		2								1
	情報処理	1前	2									1
	統計学	3前	2									1
	心理学	1前	2									1
	生命倫理学	1後	2									1
	哲学	1前		2								1
	社会福祉学	1後	2									1
	日本国憲法	1後		2								1
	東洋史概説	3前		2								1
	西洋史概説	3前		2								1
	英語Ⅰ(初級)	1前	2									2
	英語Ⅱ(中級)	1後	2									2
	英会話	2前		2								1
	医学英語	2後		2								1
	基礎英語演習	2前		2								1
	応用英語演習	2後		2								1
小計(19科目)	-	18	20	0	3	2	3	0	0	0	12	
共通科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1			1						
	チーム医療見学実習	1前	1			1						
	医療コミュニケーション	2前	1			1						
	チーム医療論	2後	1			1						
	IPW論	3前	1			1						
	基礎体育	1後	2									4
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2								1
	健康管理学Ⅰ	2前		2								1
	健康管理学Ⅱ	2後		2								1
	栄養学	2後		2								1
	身体運動科学	2前		2								3
	東洋医療概論	3前		2								2
	統合医療概論	3前		2								3
小計(13科目)	-	7	14	0	1	0	0	0	0	0	14	
学科専門科目群・専門基礎科目	言語学	1後	2									1
	音声学	1後	2									1
	音響学(聴覚心理学を含む)	1後	2									1
	医学総論	1前	1									1
	人体の構造Ⅰ	1前	2									1
	人体の構造Ⅱ	1後	2									1
	人体の機能Ⅰ	1前	2									1
	人体の機能Ⅱ	1後	2									1
	病理学	2後	1									1
	臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)	2前	1									1
	臨床病態学Ⅱ	2後	1									1
	臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)	3前	1									3
	耳鼻咽喉科学	2後	1									1
	臨床歯科医学(口腔外科学を含む)	2後	1									1
	音声・言語・聴覚医学	1前	3			2	1	2				
	言語発達学	1後	1					1				
	リハビリテーション医学(画像診断・予防)	3前	2									1
	チームリハビリテーション概論	2前	1			1						2
	臨床心理学	2前	2									1
	学習・認知心理学	3前	2									1
心理測定法	3前	1									1	
発達心理学	1後	2									1	
医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)	2前	1									1	
リハビリテーション概論	1前	1			1							
小計(24科目)	-	37	0	0	3	0	2	0	0	0	19	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目群	基礎ゼミナール	1前	2			3	2	3				2
	物理学	1後		2								1
	生物学	1前	2									1
	化学	1前		2								1
	情報処理	1前	2									1
	統計学	3前	2									1
	心理学	1前	2									1
	生命倫理学	1後	2									1
	哲学	1前		2								1
	社会福祉学	1後	2									1
	日本国憲法	1後		2								1
	東洋史概説	3前		2								1
	西洋史概説	3前		2								1
	英語Ⅰ(初級)	1前	2									2
	英語Ⅱ(中級)	1後	2									2
	英会話	2前		2								1
	医学英語	2後		2								1
	基礎英語演習	2前		2								1
	応用英語演習	2後		2								1
小計(19科目)	-	18	20	0	3	2	3	0	0	0	12	
共通科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1			1	2					
	チーム医療見学実習	1前	1			1	2		1			
	医療コミュニケーション	2前	1			1	1	1				
	チーム医療論	2後	1			1		2				
	IPW論	3前	1			1	2	1				
	基礎体育	1後	2									1
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2								1
	健康管理学Ⅰ	2前		2								1
	健康管理学Ⅱ	2後		2								1
	栄養学	2後		2								1
	身体運動科学	2前		2								2
	東洋医療概論	3前		2								2
	統合医療概論	3前		2								3
小計(13科目)	-	7	14	0	2	2	3	0	0	0	11	
学科専門科目群・専門基礎科目	言語学	1後	2									1
	音声学	1後	2									1
	音響学(聴覚心理学を含む)	1後	2									1
	医学総論	1前	1									1
	人体の構造Ⅰ	1前	2									1
	人体の構造Ⅱ	1後	2									1
	人体の機能Ⅰ	1前	2									1
	人体の機能Ⅱ	1後	2									1
	病理学	2後	1									1
	臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)	2前	1									1
	臨床病態学Ⅱ	2後	1									1
	臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)	3前	1									3
	耳鼻咽喉科学	2後	1									1
	臨床歯科医学(口腔外科学を含む)	2後	1									1
	音声・言語・聴覚医学	1前	3			2	1	2				
	言語発達学	1後	1						1			
	リハビリテーション医学(画像診断・予)	3前	2									1
	チームリハビリテーション概論	2前	1			1						2
	臨床心理学	2前	2									1
	学習・認知心理学	3前	2									1
	心理測定法	3前	1									1
	発達心理学	1後	2									1
	医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)	2前	1					1	1	1		4
	リハビリテーション概論	1前	1			1			2	1		
小計(24科目)	-	37	0	0	3	2	2	0	0	0	13	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目群・専門科目	言語聴覚障害学概論Ⅰ	1前	1			3	2	3				
	言語聴覚障害学概論Ⅱ	1後	1			1		1				
	言語聴覚障害学セミナー	3後		1		3	2	3				
	言語聴覚障害学特論Ⅰ	4後	1			3	2	3				
	言語聴覚障害学特論Ⅱ	4後	1			3	2	3				
	総合リハビリテーションIPW演習	3前	1			1					3	
	失語・高次脳機能障害学概論	2前	2			2	1					
	失語症学演習	2後	1			1	1	1				
	高次脳機能障害学演習	2後	1			1		1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	2後	1			1	1	1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	3前	1			2	1	1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ	4前	1			2	1	1				
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2					1				
	言語発達障害学Ⅱ	2前	2					1				
	言語発達障害学演習Ⅰ	2後	1					3				
	言語発達障害学演習Ⅱ	3前	1					3				
	発声発語・嚥下障害学Ⅰ	1後	1			1	1	1				
	発声発語・嚥下障害学Ⅱ	2前	1			1	1					
	発声発語・嚥下障害学Ⅲ	2後	2			2						
	音声障害学	2後	1								1	
	吃音学	3前	1								1	
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ	2前	1			1	1	1				
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ	3前	1			2		1				
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ	3後	1			1	1	1				
	聴覚障害学Ⅰ	1後	1					1				
	聴覚障害学Ⅱ	2前	1					1				
聴覚障害学Ⅲ	2前	1					1					
聴覚障害学Ⅳ	3前	1					1					
聴覚障害学演習Ⅰ	1後	1					2					
聴覚障害学演習Ⅱ	2前	1					2					
聴覚障害学演習Ⅲ	2後	1					2					
臨床実習基礎セミナー	2前	1			5	2	3					
臨床実習基礎演習	3前	1			5	2	3					
臨床実習Ⅰ（見学実習）	2通	2			5	2	3					
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3通	5			5	2	3					
臨床実習Ⅲ（総合実習）	4前	8			5	2	3					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目群・専門科目	言語聴覚障害学概論Ⅰ	1前	1			3	2	3				
	言語聴覚障害学概論Ⅱ	1後	1			1		1				
	言語聴覚障害学セミナー	3後		1		3	2	3				
	言語聴覚障害学特論Ⅰ	4後	1			3	2	3				
	言語聴覚障害学特論Ⅱ	4後	1			3	2	3				
	総合リハビリテーションIPW演習	3前	1			1						2
	失語・高次脳機能障害学概論	2前	2			2	1					
	失語症学演習	2後	1			1	1	1				
	高次脳機能障害学演習	2後	1			1		1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	2後	1			1	1	1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	3前	1			2	1	1				
	失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ	4前	1			2	1	1				
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2					1				
	言語発達障害学Ⅱ	2前	2					1				
	言語発達障害学演習Ⅰ	2後	1					3				
	言語発達障害学演習Ⅱ	3前	1					3				
	発声発語・嚥下障害学Ⅰ	1後	1			1	1	1				
	発声発語・嚥下障害学Ⅱ	2前	1			1	1					
	発声発語・嚥下障害学Ⅲ	2後	2			2						
	音声障害学	2後	1									1
	吃音学	3前	1									1
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ	2前	1			1	1	1		2		
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ	3前	1			2		1				
	発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ	3後	1			1	1	1				
	聴覚障害学Ⅰ	1後	1					1				
	聴覚障害学Ⅱ	2前	1					1				
聴覚障害学Ⅲ	2前	1					1					
聴覚障害学Ⅳ	3前	1					1					
聴覚障害学演習Ⅰ	1後	1					2					
聴覚障害学演習Ⅱ	2前	1					2					
聴覚障害学演習Ⅲ	2後	1					2					
臨床実習基礎セミナー	2前	1			5	2	3					
臨床実習基礎演習	3前	1			5	2	3					
臨床実習Ⅰ（見学実習）	2通	2			5	2	3					
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3通	5			5	2	3					
臨床実習Ⅲ（総合実習）	4前	8			5	2	3					

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
高齢期リハビリテーション概論	2後	1			3	2					
高齢期リハビリテーション演習	3前	1			3	2					
高齢期リハビリテーション特論	3後	1			3	2					
小児リハビリテーション概論	2後	1				3					
小児リハビリテーション演習	3前	1				3					
小児リハビリテーション特論	3後	1				3					
精神・心理リハビリテーション概論	2後	1				1					
精神・心理リハビリテーション演習	3前	1				1					
精神・心理リハビリテーション特論	3後	1				1					
卒業研究Ⅰ	3通	2			5	2	3				
卒業研究Ⅱ	4通	2			5	2	3				
言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学)	4通	2			2	1					
言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)	4通	2			2	1					
言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学)	4通	2				2					
言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)	4通	2				2					
言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)	4通	1			1	1	1				
小計(52科目)	0	55	19	0	5	2	3	0	0	0	4
卒業要件及び履修方法											
教養科目群から必修18単位+選択2単位以上、共通科目群から必修7単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目から必修37単位、学科専門科目群の専門科目から必修55単位、選択必修科目から選択8単位以上の計129単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。											

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
高齢期リハビリテーション概論	2後	1			3	2					
高齢期リハビリテーション演習	3前	1			3	2					
高齢期リハビリテーション特論	3後	1			3	2					
小児リハビリテーション概論	2後	1				3					
小児リハビリテーション演習	3前	1				3					
小児リハビリテーション特論	3後	1				3					
精神・心理リハビリテーション概論	2後	1				1					
精神・心理リハビリテーション演習	3前	1				1					
精神・心理リハビリテーション特論	3後	1				1					
卒業研究Ⅰ	3通	2			5	2	3				
卒業研究Ⅱ	4通	2			5	2	3				
言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学)	4通	2			2	1					
言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)	4通	2			2	1					
言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学)	4通	2				2					
言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)	4通	2				2					
言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)	4通	1			1	1	1				
小計(52科目)	0	55	19	0	5	2	3	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法											
教養科目群から必修18単位+選択2単位以上、共通科目群から必修7単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目から必修37単位、学科専門科目群の専門科目から必修55単位、選択必修科目から選択8単位以上の計129単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務実習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和2年度】(旧)→【令和1年度】(旧)

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「基礎ゼミナール」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「MBS(Morinomiya Basic Seminar)」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「チーム医療見学実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「講師0」から「講師1」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「医療コミュニケーション」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「チーム医療論」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師2」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「IPW論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授0」から「准教授1」に変更。</li> <li>・ 科目担当の見直しにより「基礎体育」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼1」に変更。</li> <li>・ 兼任教員の退職に伴い、「身体運動科学」の専任教員等の配置を「兼3」から「兼2」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師1」、「兼1」から「兼0」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「リハビリテーション概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「講師0」から「講師1」に変更。</li> <li>・ 兼任教員の退職に伴い、「総合リハビリテーションPW演習」の専任教員等の配置を「兼3」から「兼2」に変更。</li> <li>・ 教育の充実を図る理由により、「発声発語・嚥下障害学演習1」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。</li> </ul>
---

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
76 科目	32 科目	0 科目	108 科目	76 科目 [ ]	32 科目 [ ]	0 科目 [ ]	108 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{108} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	特例措置の認定により運動場機能の代替措置を講じる。 特区No. 828 (大阪市)		
	校舎敷地	28590.72㎡	0㎡	0㎡	28590.72㎡			
	運動場用地	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	小 計	28590.72㎡	0㎡	0㎡	28590.72㎡			
	そ の 他	4560.92㎡	0㎡	0㎡	4560.92㎡			
	合 計	33151.64㎡	0㎡	0㎡	33151.64㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
		32714.57㎡ (27108.06㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	32714.57㎡ (27108.06㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	52室	30室	50室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		個人研究室5室 共同研究室1室		
		総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科		6 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部・研究科等の単位での特定が不能なため、大学全体の数
		総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科	41,754 [2,204] (36,154 [1,964])	530 [77] (490 [69])	29 [12] (25 [8])	994 (934)	2712 (2,382)	
	計	41,754 [2,204] (36,154 [1,964])	530 [77] (490 [69])	29 [12] (25 [8])	994 (934)	2712 (2,382)	886 (686)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	881.58㎡		273		80,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1323.22㎡		多目的スポーツ施設 1					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	36,461千円	35,461千円	
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	120,000千円	60,000千円	60,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,850千円	1,760千円	1,760千円	1,760千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に**赤字**で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	森ノ宮医療大学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
保健医療学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成19	大阪府大阪市住之江区南港北1-26-16	
看護学科	4	-	-	-	学士(看護学)	-	-	-	平成23	同上	令和4年入学より学生募集停止
理学療法学科	4	-	-	-	学士(理学療法学)	-	-	-	平成19	同上	令和4年入学より学生募集停止
作業療法学科	4	-	-	-	学士(作業療法学)	-	-	-	平成28	同上	令和4年入学より学生募集停止
看護学部	4	90	-	270	-	0.98	-	令和4	令和4	同上	
看護学科	4	90	-	270	学士(看護学)	0.98	-	令和4	令和4	同上	
総合リハビリテーション学部	4	150	-	370	-	1.06	-	令和4	令和4	同上	
理学療法学科	4	70	-	210	学士(理学療法学)	0.99	-	令和4	令和4	同上	
作業療法学科	4	40	-	120	学士(作業療法学)	1.20	-	令和4	令和4	同上	
言語聴覚学科	4	40	-	40	学士(言語聴覚学)	1.02	-	令和6	令和6	同上	
医療技術学部	4	270	-	1080	-	1.09	1.05	-	平成19	同上	
臨床検査学科	4	70	-	280	学士(臨床検査学)	1.06	1.01	-	平成28	同上	令和4年保健医療学部から名称変更
臨床工学科	4	60	-	240	学士(臨床工学)	1.06	1.04	-	平成30	同上	令和4年保健医療学部から名称変更
診療放射線学科	4	80	-	320	学士(診療放射線学)	1.13	1.09	-	令和2	同上	令和4年保健医療学部から名称変更
鍼灸学科	4	60	-	240	学士(鍼灸学)	1.08	1.05	-	平成19	同上	令和4年保健医療学部から名称変更
大学全体	4	510	-	1720	-	-	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。  
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。  
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科>

(1) -① 担当教員表

【届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	<p>中谷 謙 &lt;令和6年4月&gt; 博士(保健学)</p> <p>基礎ゼミナール MBS(Morinomiya Basic Seminar) チーム医療見学実習 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 チームリハビリテーション概論※ リハビリテーション概論 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学概論Ⅱ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 総合リハビリテーションIPW演習 失語・高次脳機能障害学概論 高次脳機能障害学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー臨床実習 基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)</p>
		<p>大根 茂夫 &lt;令和6年4月&gt; 体育学士</p> <p>基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語・高次脳機能障害学概論 失語症学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ 発声発語・嚥下障害学Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅲ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)</p>

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	<p>中谷 謙 &lt;令和6年4月&gt; 博士(保健学)</p> <p>基礎ゼミナール MBS(Morinomiya Basic Seminar) チーム医療見学実習 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 チームリハビリテーション概論※ リハビリテーション概論 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学概論Ⅱ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 総合リハビリテーションIPW演習 失語・高次脳機能障害学概論 高次脳機能障害学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)</p>
		<p>大根 茂夫 &lt;令和6年4月&gt; 体育学士</p> <p>基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 <b>医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)</b> <b>リハビリテーション概論</b> 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語・高次脳機能障害学概論 失語症学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ 発声発語・嚥下障害学Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅲ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	前田 留美子 <令和6年4月> 博士(歯学)
		基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅲ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)
		富田 哲也 <令和6年4月> 博士(医学)
専	教授	臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
		松尾 安希子 <令和6年4月> 博士(医学)
専	准教授	南都 智紀 <令和6年4月> 博士(歯学)
		基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ 発声発語・嚥下障害学Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	前田 留美子 <令和6年4月> 博士(歯学)
		基礎ゼミナール <b>テーマ医療見学実習 IPW論</b> 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅲ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)
		富田 哲也 <令和6年4月> 博士(医学)
専	教授	臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
		松尾 安希子 <令和6年4月> 博士(医学)
専	准教授	南都 智紀 <令和6年4月> 博士(歯学)
		基礎ゼミナール <b>MBS(Morinomiya Basic Seminar) 医療コミュニケーション 医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)</b> 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ 発声発語・嚥下障害学Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅡ(発声発語・嚥下障害学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	戸田 淳氏  <令和6年4月> 博士(感覚矯正学)
		基礎ゼミナール 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語・高次脳機能障害学概論 失語症学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)
専	講師	館 幸枝  <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学Ⅲ 聴覚障害学Ⅳ 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 聴覚障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	戸田 淳氏  <令和6年4月> 博士(感覚矯正学)
		基礎ゼミナール <b>MBS(Morinomiya Basic Seminar)</b> <b>IPW論</b> 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語・高次脳機能障害学概論 失語症学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 高齢期リハビリテーション概論 高齢期リハビリテーション演習 高齢期リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅠ(失語・高次脳機能障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)
専	講師	館 幸枝  <令和6年4月> 修士(言語聴覚学)
		基礎ゼミナール <b>チーム医療論</b> 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学Ⅰ <b>発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ</b> 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学Ⅲ 聴覚障害学Ⅳ 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 聴覚障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎セミナー 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	鮎澤 俊平 <令和6年4月> Master of Science Family and Consumer Sciences Family Studies (米国)
		基礎ゼミナール 言語発達学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 臨床実習基礎ゼミナール 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 精神・心理リハビリテーション概論 精神・心理リハビリテーション演習 精神・心理リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)
専	講師	芝 さやか <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		基礎ゼミナール 音声・言語・聴覚医学 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学概論Ⅱ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語症学演習 高次脳機能障害学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 聴覚障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎ゼミナール 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学) 言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)
兼任	教授	阿部 秀高 <令和6年4月> 修士(学校教育学)
		基礎ゼミナール

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	鮎澤 俊平 <令和6年4月> Master of Science Family and Consumer Sciences Family Studies (米国)
		基礎ゼミナール <b>医療コミュニケーション</b> 言語発達学 <b>リハビリテーション概論</b> 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 臨床実習基礎ゼミナール 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 精神・心理リハビリテーション概論 精神・心理リハビリテーション演習 精神・心理リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学) 言語聴覚療法セミナーⅤ(拡大・代替コミュニケーション)
専	講師	芝 さやか <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		基礎ゼミナール <b>チーム医療見学実習</b> <b>チーム医療論</b> 音声・言語・聴覚医学 <b>医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)</b> 言語聴覚障害学概論Ⅰ 言語聴覚障害学概論Ⅱ 言語聴覚障害学セミナー 言語聴覚障害学特論Ⅰ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 失語症学演習 高次脳機能障害学演習 失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演習Ⅲ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅱ 発声発語・嚥下障害学演習Ⅲ 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 聴覚障害学演習Ⅲ 臨床実習基礎ゼミナール 臨床実習基礎演習 臨床実習Ⅰ(見学実習) 臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(総合実習) 小児リハビリテーション概論 小児リハビリテーション演習 小児リハビリテーション特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 言語聴覚療法セミナーⅢ(言語発達障害学) 言語聴覚療法セミナーⅣ(聴覚障害学)
兼任	教授	阿部 秀高 <令和6年4月> 修士(学校教育学)
		基礎ゼミナール

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	安部 辰夫 <令和6年4月> 博士(医学)
		化学 病理学
兼任	教授	藤重(中嶋) 仁子 <令和6年4月> 博士(言語文化学)
		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話
兼任	教授	中原 英博 <令和6年4月> 博士(医学)
		基礎体育
兼任	教授	中根 征也 <令和6年4月> 修士(学術)
		身体運動科学 総合リハビリテーションIPW演習
兼任	教授	山下 仁 <令和6年4月> 博士(保健学)
		統合医療概論
兼任	教授	森 美侑紀(広子) <令和6年4月> 博士(医学)
		統合医療概論
兼任	教授	吉岡 敏治 <令和6年4月> 博士(医学)
		医学総論 臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)
兼任	教授	森谷 正之 <令和6年4月> 博士(歯学)
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 臨床歯科医学(口腔外科学を含む)
兼任	教授	五十嵐 淳介 <令和6年4月> 博士(医学)
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	安部 辰夫 <令和6年4月> 博士(医学)
		化学 病理学
兼任	教授	藤重(中嶋) 仁子 <令和6年4月> 博士(言語文化学)
		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話
兼任	教授	山下 仁 <令和6年4月> 博士(保健学)
		統合医療概論
兼任	教授	森 美侑紀(広子) <令和6年4月> 博士(医学)
		統合医療概論
兼任	教授	吉岡 敏治 <令和6年4月> 博士(医学)
		医学総論 臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)
兼任	教授	森谷 正之 <令和6年4月> 博士(歯学)
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 臨床歯科医学(口腔外科学を含む)
兼任	教授	五十嵐 淳介 <令和6年4月> 博士(医学)
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 臨床病態学Ⅰ(形成外科学含む)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	前川 佳敬 <令和6年4月> 博士(医学)
		臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む) 耳鼻咽喉科学
兼任	教授	松崎 伸介 <令和6年4月> 博士(医学)
		臨床病態学Ⅱ 臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)
兼任	教授	井手口 範男 <令和6年4月> 修士(人間科学)
		心理測定法
兼任	教授	堀 竜次 <令和6年4月> 博士(医学)
		チームリハビリテーション概論※
兼任	教授	橋本 弘子 <令和6年4月> 博士(保健学)
		チームリハビリテーション概論※
兼任	教授	三木屋 良輔 <令和6年4月> 修士(医科学)
		総合リハビリテーションIPW演習
兼任	教授	松下 太 <令和6年4月> 博士(医学)
		総合リハビリテーションIPW演習
兼任	准教授	増山 祥子 <令和6年4月> 修士(心身健康科学)
		統合医療概論
兼任	准教授	前田 薫 <令和6年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	前川 佳敬 <令和6年4月> 博士(医学)
		臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む) 耳鼻咽喉科学
兼任	教授	松崎 伸介 <令和6年4月> 博士(医学)
		臨床病態学Ⅱ 臨床病態学Ⅲ(精神・小児・神経含む)
兼任	教授	井手口 範男 <令和6年4月> 修士(人間科学)
		心理測定法
兼任	教授	堀 竜次 <令和6年4月> 博士(医学)
		チームリハビリテーション概論※
兼任	教授	橋本 弘子 <令和6年4月> 博士(保健学)
		チームリハビリテーション概論※
兼任	教授	三木屋 良輔 <令和6年4月> 修士(医科学)
		総合リハビリテーションIPW演習
兼任	教授	松下 太 <令和6年4月> 博士(医学)
		総合リハビリテーションIPW演習
兼任	准教授	増山 祥子 <令和6年4月> 修士(心身健康科学)
		統合医療概論
兼任	准教授	前田 薫 <令和6年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)
兼任	准教授	高木 悠哉 <令和6年4月> 博士(心理学)
		基礎ゼミナール 心理学 臨床心理学 学習・認知心理学 発達心理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	長尾 晋宏 <令和6年4月> 修士(文学)
		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習
兼任	講師	信江 彩加 <令和6年4月> 修士(スポーツ科学)
		基礎体育
兼任	講師	小田 啓之 <令和6年4月> 博士(スポーツ科学)
		基礎体育 健康科学(スポーツ社会学を含む)
兼任	講師	杉本 圭 <令和6年4月> 修士(学術)
		身体運動科学
兼任	講師	松尾 浩希 <令和6年4月> 修士(教育学)
		身体運動科学
兼任	講師	辻 涼太 <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		東洋医療概論
兼任	助教	佐久間 俊 <令和6年4月> 博士(応用情報科学)
		情報処理 統計学
兼任	助教	伊奈 新太郎 <令和6年4月> 修士(体育学)
		基礎体育
兼任	助教	紀野 江理 <令和6年4月> 専門学校卒
		東洋医療概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	長尾 晋宏 <令和6年4月> 修士(文学)
		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習
兼任	講師	小田 啓之 <令和6年4月> 博士(スポーツ科学)
		<b>基礎体育</b> 健康科学(スポーツ社会学を含む)
兼任	講師	杉本 圭 <令和6年4月> 修士(学術)
		身体運動科学
兼任	講師	松尾 浩希 <令和6年4月> 修士(教育学)
		身体運動科学
兼任	講師	辻 涼太 <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		東洋医療概論
兼任	助教	佐久間 俊 <令和6年4月> 博士(応用情報科学)
		情報処理 統計学
兼任	助教	伊奈 新太郎 <令和6年4月> 修士(体育学)
		基礎体育
兼任	助教	紀野 江理 <令和6年4月> 専門学校卒
		東洋医療概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	久国 正章 <令和6年4月> 高等学校卒
		物理学 生物学
兼任	講師	高木 悠哉 <令和6年4月> 博士(心理学)
		心理学 臨床心理学 学習・認知心理学 発達心理学
兼任	講師	神田 靖士 <令和6年4月> 博士(心理学)
		生命倫理学
兼任	講師	中元 洸太 <令和6年4月> 博士(人間・環境学)
		哲学 西洋史概説
兼任	講師	掛川 直之 <令和6年4月> 博士(創造都市)
		社会福祉学
兼任	講師	植田 重幸 <令和6年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任	講師	重信 あゆみ <令和6年4月> 修士(中国文学)
		東洋史概説
兼任	講師	伊黒 浩二 <令和6年4月> 修士(健康科学)
		健康管理学 I 健康管理学 II
兼任	講師	南方 克之 <令和6年4月> 博士(医学)
		栄養学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	久国 正章 <令和6年4月> 高等学校卒
		物理学 生物学
兼任	講師	神田 靖士 <令和6年4月> 博士(心理学)
		生命倫理学
兼任	講師	中元 洸太 <令和6年4月> 博士(人間・環境学)
		哲学 西洋史概説
兼任	講師	伊東 佳純 <令和6年4月> 修士(学術)
		社会福祉学
兼任	講師	植田 重幸 <令和6年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任	講師	重信 あゆみ <令和6年4月> 修士(中国文学)
		東洋史概説
兼任	講師	伊黒 浩二 <令和6年4月> 修士(健康科学)
		健康管理学 I 健康管理学 II
兼任	講師	南方 克之 <令和6年4月> 博士(医学)
		栄養学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本 亮 <令和6年4月> 博士(文学)
		言語学 音声学
兼任	講師	山岡 翔 <令和6年4月> 博士(文学)
		音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	李 庸吉 <令和6年4月> 博士(法律学)
		医療関係法規論(社会保障制度・関係法規含む)
兼任	講師	福永 真哉 <令和6年4月> 博士(医学)
		音声障害学 吃音学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本 亮 <令和6年4月> 博士(文学)
		言語学 音声学
兼任	講師	山岡 翔 <令和6年4月> 博士(文学)
		音響学(聴覚心理学を含む)
兼任	講師	福永 真哉 <令和6年4月> 博士(医学)
		音声障害学 吃音学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
  - ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュ

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・令和6年4月 以下の兼任教員が就任  
高木 悠哉（兼任）准教授
- ・令和6年4月 以下の兼任教員が就任  
伊東 香純（兼任）講師
- ・一身上の都合により中根 征也（兼任）教授 退職のため就任辞退
- ・科目担当の見直しにより以下の兼任教員が就任辞退  
中原 英博（兼任）教授、信江 彩加（兼任）講師
- ・科目担当の見直しにより以下の兼任教員が就任辞退  
李 庸吉、掛川 直之
- ・科目担当の見直しにより大根 茂夫（専任）教授の科目を2科目（医療関係法規論（社会保障制度・関係法規含む）、リハビリテーション概論）を追加
- ・科目担当の見直しにより前田 留美子（専任）教授の科目を2科目（チーム医療見学実習、IPW論）を追加
- ・科目担当の見直しにより南都 智紀（専任）准教授の科目を3科目（MBS(Morinomiya Basic Seminar)、医療コミュニケーション、医療関係法規論（社会保障制度・関係法規含む））を追加
- ・科目担当の見直しにより戸田 淳氏（専任）准教授の科目を2科目（MBS(Morinomiya Basic Seminar)、IPW論）を追加
- ・科目担当の見直しにより館 幸枝（専任）講師の科目を2科目（チーム医療論、発声発語・嚥下障害学演習Ⅰ）を追加
- ・科目担当の見直しにより鮎澤 俊平（専任）講師の科目を2科目（医療コミュニケーション、リハビリテーション概論）を追加
- ・科目担当の見直しにより芝 さやか（専任）講師の科目を3科目（チーム医療見学実習、チーム医療論、医療関係法規論（社会保障制度・関係法規含む））を追加
- ・科目担当の見直しにより、中根 征也（兼任）教授の科目を2科目（身体運動科学、総合リハビリテーションIPW演習）削除
- ・科目担当の見直しにより、高木 悠哉（兼任）講師の科目を4科目（心理学、臨床心理学、学習・認知心理学、発達心理学）削除
- ・科目担当の見直しにより、高木 悠哉（兼任）准教授の科目を5科目（基礎セミナー、心理学、臨床心理学、学習・認知心理学、発達心理学）追加
- ・科目担当の見直しにより以下の兼任教員の科目を1科目（基礎体育）を削除  
中原 英博（兼任）教授、信江 彩加（兼任）講師、小田 啓之（兼任）講師
- ・科目担当の見直しにより掛川 直之（兼任）講師の科目を1科目（社会福祉学）を削除
- ・科目担当の見直しにより伊東 香純（兼任）講師の科目を1科目（社会福祉学）を追加
- ・科目担当の見直しにより、李 庸吉（兼任）講師の科目を1科目（医療関係法規論（社会保障制度・関係法規含む））を削除

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**。
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
	8
	4
	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。  
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	2	3	0	10	0	5	2	3	0	10	0
(5)	(2)	(3)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	2	3	0	10	0	5	2	3	0	10	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
60	2	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{10} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
							該当なし
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
							該当なし
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{10} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
						該当なし	
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul>
---

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>該当なし</p>
-------------

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時  (令和5年)	入学者選抜の適切な実施等を通じ、収容定員超過の改善に努めること。(総合リハビリテーション学部作業療法学科)	令和5年度はコロナ禍の影響もあり、入学者数を予測するのが困難であったため作業療法学科の定員超過率は1.25となってしまった。今年度の入学者数は48名で定員超過率は1.2と減少している。定員超過となってしまった主な原因として、見込んでいた第2、第3志望の合格者の辞退数が、予想していたよりも少なく、その結果、超過率が上がってしまったと考える。	今後の対策として、まずは直近の保留率の分析を行い、適切な入学者数を予測し、定員超過の改善を図っていく。そのために、第1志望の入学者をしっかりと確保することで、予測の精度を上げ、収容定員の管理に努めていきたい。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

**【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

**【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。

**【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	設置計画に関する変更は特になし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 自己点検評価・FSD委員会を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和5年度において12回実施した。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度 全体SD研修について</li> <li>・令和4年度教職課程自己点検評価報告書について</li> <li>・2022年度 学生満足度調査のフィードバックについて</li> <li>・ガバナンス・コード 2023年度実施状況点検について</li> <li>・2023年度 エビデンス集データ編について</li> <li>・2023年度 前期授業評価アンケート調査結果について</li> <li>・令和5年度教育の質に係る客観的指標回答について</li> <li>・教育方法改善研究会メンバーの公募について</li> <li>・2023年度前期リフレクションペーパーについて</li> <li>・ダイバーシティセンター設置に伴う合理的配慮のセミナー実施について</li> <li>・令和5年度理学療法学科・作業療法学科 自己点検評価書について</li> <li>・2024年度 授業評価アンケート及び公開授業の新たな取組みについて</li> <li>・自己点検評価・FSD委員会 事業計画進捗報告について</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度自己点検に係るエビデンス集・データ編の作成および公開の実施</li> <li>・学内FSDセミナーの開催</li> <li>・令和5年度授業評価アンケート、公開授業週間の実施</li> <li>・大学院自己点検評価・FSD委員会の設置</li> <li>・学外研修会・セミナー等の案内</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全体に向けた授業評価アンケート結果に基づくフィードバック会</li> <li>・教員全体の公開授業週間のアンケート、その結果に基づくフィードバック会</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の授業評価アンケートは 前期（令和5年6、7月）に全学科・全学年延べ8,575件 後期（令和5年10月～令和6年2月）に全学科・全学年延べ9,040件実施した。</li> <li>・令和5年度の公開授業週間は 前期（令和5年6、7月頃）に実施し、公開授業科目数72科目、授業参観教職員数が延べ680名参加した。 後期（令和5年12月、令和6年1月）に実施し、公開授業科目数56科目、授業参観教職員数が延べ563名参加した。</li> <li>・FSDセミナーとして 令和5年9月～令和5年12月「令和5年度 研究費コンプライアンス研修会（動画配信）」 234名受講口</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 令和5年度においては前期（令和5年7月）、後期（令和5年11月）に実施した。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 学生に対しては掲示板において授業アンケートの結果と教員側からのコメントをまとめたリフレクションペーパーの結果の公表を実施している。教職員に対しては授業アンケートの結果とリフレクションペーパーの一覧をフィードバック会で配布する。</p>
--

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に記載した設置の趣旨・目的の達成に向け、計画通り、教育研究活動を実行できている。

令和6年入学者においては41名を受け入れた。今後も継続して教育活動の充実を図っていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年8月末日 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

・令和2年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受審し、審査の結果令和3年3月に適合の認定を受けた。令和9年度に受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

〈aで「有」の場合〉

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

〈aで公表「無」の場合〉

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。